

一

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 筋金入りの思想。
- (2) 休耕田が増える。
- (3) 失笑を買う。
- (4) 若年性の病。
- (5) 気球は風任せで飛ぶ。
- (6) 作戦をネる。
- (7) 事件のチヨウホンニン。
- (8) 駅伝キョウソウ。
- (9) お城にサンジヨウする。
- (10) 高齢の父のケンコウを喜ぶ。

二

次の(1)～(5)の各文の()にあてはまる季節を漢字一字で入れ、——線部のことわざをそれぞれ完成させなさい。

- (1) もうすぐ君の努力が報われるよ。() () 来たりなば春遠からじと言うじゃないか。
- (2) () の日はつるべ落としというが、最近では日の暮れるのがずいぶん早くなった。
- (3) めっきり暖くなり、気持ちよくてつい寝過ねごしてしまふ。() () 眠みんあ暁あつきを覚えずだね。
- (4) 向こうからやって来るとは、飛んで火に入る() () の虫だな。
- (5) もの言えばくちびる寒し() () の風というから、よけいな事は言わない方がいい。

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

ニホンノケイザイセイチヨウヲササエテキタモノヅクリニカカワルシゴトハキンネンジンザ
イノリユウシュツトアジアシヨコクノメザマシイセイチヨウニヨツテクセンヲシイラレテイ
マス。ソノフツカツニハトウゼンジセダイノギジュツシャノセイチヨウガフカケツデス。ミ
ライノニホンノサンギヨウヲササエルタメニモワカイキミタチハオオクノコトニキヨウミヲ
モチマナブヒツヨウガアリマス。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

脊椎動物には皆、シッポがある。カエルにはない¹が、オタマジャクシのときにはあるから例外とは言えない²。ヘビはシッポと胴体の区別がつきにくい³が、肛門から後ろは、間違いなくシッポだ。モルモットも、一見ないように見えるだけで、触れば短いシッポの骨がちゃんとわかる。モロッコあたりにいるバーバリーマカクというサルにはシッポがないと図鑑には書いてあることもあるが、実際には「ないと言ってもいいほどに短い」というだけである。

本当にまったくシッポがないのは類人猿とヒトだけである。類人猿とは、テナガザル、オランウータン、ゴリラ、チンパンジーのことで、だから本当は、類人猿とヒトは「尾のないサル」として、ひとつのグループにいられていいのである。それほど決定的な共通の特徴なのだ。ただ分類したのがヒトだったから、ヒト以外を「人に似たサル」という意味の「類人猿」として、さらに分けてしまっただけなのだ。なんとも客観性を欠いた分類だとも思う。

いずれにしても、シッポのないわれわれには、シッポがあると、どういう感じがするものなのか想像がつかない。シッポを動かすとは、どういう感覚のものなのだろうか。自分にシッポのないことが残念に思えることがある。それほど動物たちはシッポをいろいろなことに使うのである。別になくしてしまわなくとも、何かに使えたのではないかと思えるし、シッポのある感覚を味わってみたいと思う。

「そんなもんかね」と言う人たちにも、数少ないシッポなしの動物としてのシッポへのノスタルジアを感じてほしい。だから以下、動物たちのシッポの使い方アラカルトを述べてみる。

長いシッポの典型的な使い方方はバランス取りだ。木の上でも地上でも、とにかく敏捷な動きをするものたちのシッポは皆長い。サルやリスやネコなどがその典型だ。こういう動物が走っているとき、シッポは風になびいたりするものでは決してない³。しっかりと力が入り、あつちに向き、こつちに向き、また弓なりに曲がったりして体のバランスを取っている。塀から落ちそうになったネコのシッポなど、目にもとまらぬ速さで必死でグルグルと回っている。

毛がフサフサとあるリスのシッポなら、バランス取りに加えて、（あ）もする。木の幹を逆さまに降りてくるときなどにパツと広げているのがそうだ。さらに座っているときのシッポは頭の上まで伸びているが、雨の日のカサの役目もしてくれる。

寝るときは体に巻きつけて毛布の代わりだとしてくれる。実に便利なシロモノである。

南米に住むオマキザルの仲間だと、シッポは手足の代わりも立派にする。木に巻きつけて、シッポだけで体を支えることができるのだ。この仲間のクモザルやウーリーモンキーになると、シッポの先でピーナツのような小さなものをつまむことまでできてしまう。(い)までするわけだ。シッポの先の裏側に、ちゃんと指紋のようなすべり止めまで備えている。

カンガルーの太いシッポは、バランスというより反動による起動力だ。後ろ足だけでピョンピョンと跳ぶとき、シッポがリズムカルに上下に動き、それで反動をつけている。さらに、このシッポも足の役目をするのだが、オマキザルとは違う使い方をする。ゆっくりと前に進むとき、カンガルーは、前足を揃えて同時に前に出し、次に後ろ足を同じく同時に前に出す。ところが前足は後ろ足に比べ極端に短いし細いので、普通にこれをやったらツンのめる。そこで、後ろ足を同時に浮かせている間、前足とシッポで体を支える。つつかえ棒^①的足の役目をするのである。このつつかえ棒^②は太いだけに強力で、ケンカるときはシッポだけで立ち、両足の後ろ足を同時に前に出して足蹴りをやる。

つつかえ棒^③にシッポを使うのは、ミイアキャットやトビウサギもおなじだ。後ろ足だけで立ち、背伸びをして、まわりの様子を見るのだが、そのときにシッポを地面につければ、支点が三つ、ちょうど三角形になって安定がいい。

長くて先つちよにフサがついているシッポは、(う)をする。ウシ、キリン、ゾウ、シマウマなどの草原にいる大型の動物たちだ。ひがな一日、突っ立って草をモグモグと食べる生活は、ハエその他の虫がまとわりついてうるさい。フサのある長いシッポを振っていけば、かなり広範囲に虫をおっばらうことができる。中型の草食動物たちも虫を追うためにシッポを振るが、体が小さい分シッポも短い。でも十分に虫をおっばらえる。ちなみに、そうやって、いつもいつもシッポを振るので、動物園のゾウはフサの先が壁をこすり、長年の間にすりきれてしまうことがある。動物園のゾウのシッポの先が、試験管ブラシのようになっていることがあるが、野生のゾウなら二〇〜三〇センチメートルの長い毛のフサがあるものである。

さて、長いシッポばかりに役目があるわけではない。短いシッポにも、それなりの役目がある。シカのシッポは短い、シッポの裏の毛が白いものが多く、これは(え)をする。たとえばニホンジカがそうだが、「逃げろ！」というときは緊張のあまりシッポが上がり、毛も逆立つ。するとお尻のまわりに白い花がパツと開いたようになって、とても目立つ。子どもは、それを目印に親の後に続いて逃げる。

ニホンザルもシッポが短い。ヒヒのように地上で暮らすサルのシッポは短いものだが、ニホンザルは決して地上のサルではない。^④「北限のサル」としての適応ではないかと言われている。体の突起物をなるべく小規模にするというのが(お)。長い

シッポは体温を奪ってしまい不利なのである。とにかく、^⑤樹上生活のサルとしては珍しいシッポだが、このシッポも信号を出す。シッポを立てるのが強さの表れ、逆にシッポを下げるのは弱さの表れだ。だから群れの中で一番強いサルは、いつもシッポを立てている。その他は、相手によってシッポを立てたり下げたりする。要するに、気分がシッポに表れるということなのだ。やる気だとシッポに力が入り、弱気だと力が抜けるのだ。イヌやネコのシッポに威嚇や恐怖が表れるのとまったく同じだ。

ビーバーのシャモジのようなシッポも、^⑥「④」が結果的に信号になる。泳いでいて危険を感じると、まずシッポが真上に立つ。そして頭から潜るのだが、そのときに、シッポが水面をバシャツとたたくことになり、その音が、まわりのビーバーへの「危険の合図」になるのである。

信号のために、直接シッポを使うのではなく、^⑦間接的に使うというのはカバである。ウンチをしながら短いシッポを目まぐるしく振り、ベタベタウンチをそこいらじゅうにまき散らす。食事時には話題にできない使用法だが、カバにとっては自分のなわばりを知らせるための大切な信号、カバの食事時には大切な事柄なのである。

シッポのいろいろな使い方をあげてみたが、結局のところシッポは気分を表れである。気分が高まったり緊張したりすると力が入り、弱気になったり安らいだりすると力が抜けるということに関しては、どれも共通しているからだ。ハエタキ用のシッポだって、うるさい虫にイラつくから動くのだろう。しかし、気分が背骨を伝わりシッポが動く……。一体どんな気分だろうか。一度でいいから、その感じを味わってみたいものである。

(加藤由子『増補 ゾウの鼻はなぜ長い』より)

問一 本文中には次の文が抜けています。どこに入りますか。直後の五字を抜き出して答えなさい。

サーカスの綱渡りをする人が長い棒を持っていたり、私たちが急スピードで角をまがるときに腕を上げた方が楽なのと同じ原理だ。

問二 本文中の（あ）（お）にあてはまる言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 指の役目

イ 寒さへの適応

ウ パラシュートの働き

エ 信号の役目

オ ハエタタキの役目

問三

——線部①「シッポへのノスタルジア」とありますが、それはどのような気持ちですか。「という気持ち」に続くように、十五字以内で答えなさい。

問四

——線部②「オマキザルとは違^{ちが}う使い方」とありますが、どのような使い方ですか。本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問五

——線部③「樹上生活のサルとしては珍^{めず}らしいシッポ」とありますが、なぜ「珍しい」のですか。次の「^め」を埋める形で説明しなさい。

樹上生活のサルは「ア」ために、シッポは「イ」はずである。

しかし、ニホンザルは「ウ」であり、シッポが「イ」と、「エ」が「オ」でしまふ。
だから、樹上生活のサルとしては、「珍しく」シッポが「カ」のである。

問六

本文中の「④」にあてはまる言葉を、本文中から五字で抜き出して答えなさい。

問七

——線部⑤「間接的に使う」とありますが、どういうことですか。同じような例とその説明として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新聞を、床清掃^{ゆかそう}のときにワックスをかわかすために利用すれば、新聞紙を間接的に役立てたことになる。

イ 食パンを販売^{はん}するときに、切れ端^{はし}として出たパンの耳を無料で配れば、ゴミを間接的に減量したことになる。

ウ 魚の身を食べた後、骨を肥料として使えば、カルシウムを間接的に摂取^{せつ}することになる。

エ 折れた野球のバットを、えんぴつの軸^{じく}として再利用すれば、バットを間接的に使うことになる。

問八 この文章の表現や構成について述べたものとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まず、長いシッポと短いシッポの働きの違い^{ちが}を示し、その上で長いシッポを持つ動物の生態と、短いシッポを持つ動物の生態の違いをはっきりとさせるといふ構成である。

イ なぜヒトにはシッポがないのかということテーマとして、シッポがある動物についてそのそれぞれの役目を説明し、人間には必要ないものだからだといふ結論を導いている。

ウ 筆者は、シッポについてあまり関心がない人たちがいることを残念に思っていて、より多くの人にシッポの意義を伝えるために、多くの動物のシッポの働きを親しみやすい文体で述べている。

エ 筆者は、さまざまな動物の生態の違いを明らかにしなければならぬと考えていて、シッポの使い方注目し、専門的用語を使いながら、その働きの違いを説明している。

問九 ———線部1～4の「ない」のうち、同じはたらきをするものを選び、番号で答えなさい。

問十 もしあなたにシッポがあつたら、どのように使いたいですか。理由も含めて、二百字以内で書きなさい。

受験番号			

氏 名

得点
*

*印のところは、何も記入しないでください。

(8)	(5)	(1)
	せ	(2)
(9)		(6)
	る	(3)
(10)		(7)
		(4)

小計

*

二

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

小計 二

*

三

[illegible]

小計 三

*

氏 名

*

四

小計 四

...

という気持ち。

問

問

問二

問四

問五

問六

問

問十

あ

い

う

え

お

ア

I

才

1

力

ウ

問八

問九

才

1

力

ウ